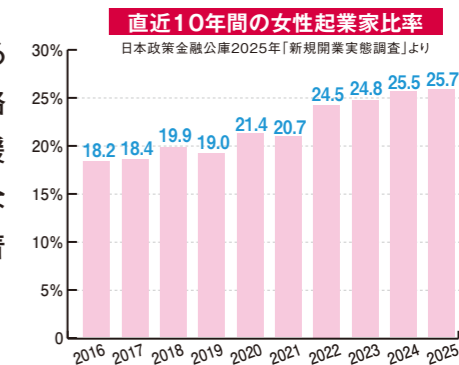


# 特集 シン・女性経営者像を追って

## — 後編 —

日本初の女性総理となった高市早苗氏が国内外で発信している「JAPAN is BACK」という合言葉は、2013年に閣議決定した成長戦略『日本再興戦略』が原点となっています。以降、政府はスタートアップ支援を強く打ち出すようになり、最近では年間起業数も15万社を超えるようになりました。これに女性活躍政策の推進も重なり、女性起業家の割合も着実に上昇。経営の担い手として女性の存在感が高まっています。しなやかな力強さを発揮する、女性経営者たちをレポートします。



ロイヤル・エイド  
合同会社 **LOYAL・AID**  
【向原支部会員企業】 代表社員 **松本 和美** 氏

大分市大字野田426番地2  
TEL.097-547-7244  
URL <https://loyalaid.jp>



「元氣な笑顔を取り戻せました」と満面の笑顔で喜ぶ入所者と松本代表



施設の新築には人と環境にやさしいZEBを導入



最新の機器を導入し、快適に入浴いただけます



施設では安心・安全・高品質な介護サービスを提供



松本和美 代表社員

## まごころを込めた介護サービスのバックグラウンドにあるもの

高齢化社会の進展により、介護業界は社会を支える重要な基盤になりました。各種制度の改定に伴い、介護サービスの形態も在宅・訪問型、通所・短期入所型、施設居住型など、その選択肢は多岐にわたっています。

大分市の合同会社LOYAL・AIDの松本和美代表は、看護師から介護の業界に入り、現在は住宅型有料老人ホーム『ケアホームLOYAL』を運営しています。「複数の医療機関に勤務した後、医療と介護を一体化させた業務に携わりたいと考えるようになり、全国展開の大手訪問介護事業所で管理者として勤務しはじめました」

ところがその矢先、当勤務先が介護事業から撤退し、別の企業へ事業譲渡することになりました。どうすべきか悩んでいたところ、松本氏に信頼を寄せる多くのケアマネジャー等から、自ら起業することを勧められ、2008年に大分市で訪問看護ステーションを立ち上げたのです。

「現在と比べて訪問看護事業所が少なかったこともあり、利用者は順次増えていきました。前職での経験は、“経営者としての素養”を磨くことができた前向きに捉えました」

順調に事業を拡大していくなか、施設に居住しながら一日を通じた介護サービスを提供したいと考えるようになり、『ケアホームLOYAL』の開所を決断。建設用地情報の取得、環境に配慮したZEB方式の施設建設に伴うアドバイスなど、多くの方々が松本代表を応援してきました。

「準備を進める途上で、自宅を訪問する看護員と、施設内でケアする看護員とでは、同じ看護職でも求められる視点や対応の仕方に違いがあることを知りました。新たな人材確保に頭を悩ませていたところ、みらいしんきんから短期人材活用サービスの事業者を紹介されたことも助かりました」

開所後は約40名の職員が在籍し、入所者やその家族に寄り添いながらのケアを心がけています。

「施設の名称は、忠実・誠実の意味を持つ“Loyalty”由来しています。多くの人たちとの“繋がり”を大切にしながら、まごころを込めた介護サービスを提供していきたい」

幾多の困難に直面しながらも、しなやかな歩みを進めてきた松本代表。その歩みを支えてきたのは、“Loyalty”の理念のもと築かれてきた、人と人との“繋がり”にほかなりません。

有限会社 **いちのいで**

【山の手支部会員企業】 代表取締役 **志賀 晴香** 氏

別府市上原町14-2  
TEL.0977-21-4728

URL <https://ichinoide-kaikan.jimdofree.com/>



絶好のロケーションに恵まれた温泉と、美味しい手作り弁当が評判のいちのいで会館



キッチンカーで販売する豆腐スイーツは大分初上陸



温泉水を使った化粧水「ミラルクミスト」



豆腐をドリンクにしたヘルシーなスイーツ



志賀晴香 代表取締役

## “第二の創業”にチャレンジする三代目経営者の覚悟

別府湾を見渡す眺望と、コバルトブルーの露天風呂が人気を呼ぶ日帰り温泉『いちのいで会館』。運営する有限会社いちのいででは湯元業を生業にするかたわら、二代目の生永利男氏（故人）が仕出し事業に着手。施設で食事をされた方に温泉を開放しはじめたところ、またたく間に評判が広がり、別府を代表する温泉施設のひとつになりました。「私たちが子どもの頃、父が作ってくれた温泉プールが始まりです。その父が2019年に亡くなってしまい、閉業まで考えていたところ、『このまま終わらせてはならない!』と三女の私が名乗り出て、代表取締役に就任しました」

家業を引き継いだ志賀晴香代表は、調理師専門学校を卒業後、幼稚園の給食調理に従事。結婚後は子育てをしながら実家を手伝う程度だったといいます。

「母親と私、そして二人の姉も別府市外から手伝いに駆けつけての再開でしたが、その矢先にコロナ禍の直撃に遭いました。観光客の減少に伴い温泉利用者が落ち込み、冠婚葬祭やイベント行事も縮小され仕出し需要も激減したのです」

事業の柱を見なおさざるを得ない境遇に戸惑いながらも、

志賀代表は下を向きませんでした。新規の取引先開拓に奔走し、用途や年齢層に応じた手作りメニューにこだわり、先代が築いてきた品質の維持に努めました。空いた時間には食育、スポーツフード、離乳食の知識を深め、アドバイザーとして講演会に招かれるまでのキャリアを積み上げました。「コロナ禍で、すべてがリセットされたようでした。三代目である私は、この試練を“第二の創業”と考えなおし、新たな価値づくりにもチャレンジしました」

コロナ禍が明けてからも“攻め”の姿勢は崩しません。

自らお米や野菜づくりに取り組み、別府市内成の棚田で企画した「新米おにぎりを食べる会」イベントでは、市民と共に“食”に関する理解を深めました。このほか、温泉を活用した産後ケアの提案、温泉水を使った化粧水の開発、大分初上陸の豆腐スイーツ販売などにも着手。介護の資格も取得し、バリアフリー対応の湯宿も近日中に開業予定です。

「食と地域に根ざした取り組みを実践していきたい!」と力を込めて話す志賀代表。持ち前のポジティブ思考が覚醒した、いちのいで・三代目の挑戦は始まったばかりです。